



北海道白樺高等養護学校

コミュニティ・スクールたより

～第1号～

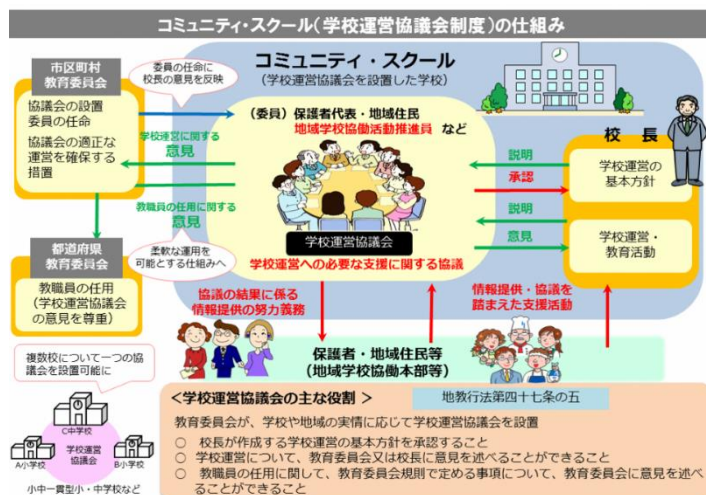
令和5年6月21日(水)

北海道白樺高等養護学校

学校運営協議会事務局

本校のコミュニティ・スクールは、昨年度より発足し、今年度8名に委員を増やし始動しました。これまでも地域と連携しながら歩んできた本校ですが、新たにコミュニティ・スクールが導入され、活動をすすめていきます。

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。コミュニティ・スクールには保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりするといった取り組みが行われます。これらの活動を通じて、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させることができます。



○令和5年度学校運営協議会委員

中野光興	西部地区連合町内会 会長
大東恒子	西部地区社会福祉委員会 顧問
仁木裕香	西部地区生涯学習振興会 生涯学習推進アドバイザー
新小林淳	北広島市立西部中学校 教頭
新堀川厚志	星槎道都大学 特任教授
水谷里子	卒業生と父母の会 役員
新萬慎一郎	北海道はまなす食品(株)能力開発センター センター長
新古田啓子	白樺高等養護学校 PTA 会長

※顧問 山本貴路 校長

学校運営協議会を含め、今年度は4回の活動を予定しております。このコミュニティ・スクールたよりを通じて、活動の様子をお伝えしていきます。

■第1回学校運営協議会

まず始めに、校長より今年度から委員になった4名(堀川委員、萬委員、小林委員、古田委員)へ辞令交付後、自己紹介をしました。そして、委員の中から星槎道都大 堀川厚志様が委員長として決まりました。

議事の一つ目は、学校長より「令和5年度グランドデザインについて」です。教職員はもとより、保護者、地域、関係機関の方々に本校の教育方針が明確に、簡潔に伝わるように作

成されていること、先生方の指導の根拠として明確になるものとしていること、歴史と伝統を継承しつつ、生徒が自分の良さ可能性を認識し、生徒自ら働き続けるための力、知識・技能・態度を身に付けるための指導の根拠となるように等の説明後、承認を受けています。

二つ目は、本校コミュニティ・スクール

における目的、年間計画・活動方法を説明しました。年間4回の活動を行い、その間に生徒の活動を見ていただける「しらかば店」も活動日として設定したこと、部会はグループ分けした委員の皆様で、熟議を行う時間を設定したこと等を説明しました。部会は「キャリア部会」「地域推進部会」「広報渉外部会」の三つ。委員の皆様には部会三つに参加いただき、熟議を進めていきます。

その後質問を受けました。「部会のメンバーは、次回の部会前までに事務局で決めさせていただく」「部会名が難しいことから、中身についてわかりやすいよう今後工夫していく」「しらかば店は各学科の販売会として本校で実施される」などです。

顧問の山本校長の提案で、就労の視点、地域との連携、進学の見点、在校生の保護者の視点で本校の役割、求めることなどを委員の皆様にお話しいただきました。「働き続ける力、生活する力について指導をしている。訓練生にとって就職がゴールではなくそこから先70歳80歳まで働く力を付ける。なにかの機会に職業訓練の話ができれば」「最近若い人が頑張っていることに価値を見出さないと、情報をつかんだら良いところに移るような気がする。昔は頑張っていることを続けて頑張ってきたから良い事があるという思いがあった。



価値観が変わって来たのではない」「中学校は小学校と連携し、地域の方の力を借りて象徴的な催し物を作って発展してきた。小中連携に高校も。小中の特別支援学級と連携する中で成長することはあるので何か象徴的なものができれば。販売会に小中学生が参加して小中学生をコーディネートする等時間を掛けて話ができると良い」「小中の特別支援学級と高等養護学校の保護者との交流があるとお互いにとって良い」「地域で太鼓部の演奏が喜ばれている。コロナ

の影響で行うことができていなかったが早く復活できれば。以前は中学校の合唱部と白樺の合唱部と一緒に歌ったりしていた」

■今後について

今回は第1回目ということで、事務局側からの説明が大半でしたが、その中でも本校に対する様々な意見をいただきました。今年度進めるにあたって、参考となる貴重な意見をいただく機会となりました。次回からは部会です。グループ分けしたメンバーの中で実りある熟議がなされたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。